



特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2020 年度 事業報告

上位目標：地域主導による資源循環の構築で、生物多様性の保全、地域の創生、シマフクロウの生息環境の持続的保全

概ね2024年度 末までに目指す姿	保護・保全事業 各種調査・補助給餌・重要環境の保全	
<p>中長期の調査目標を立て、確実に終えて区切り、終わった部分ごとに総括して発表。次の計画に活かしていく。</p>	<p>【給餌のモニタリング】 釧路管内に生息するシマフクロウのつがいが利用する給餌池の給餌の利用状況にかかるモニタリングを 通年実施した。 今年度は繁殖が行われずつがいだけの給餌量や給餌場における行動記録を蓄積した。給餌池の滞在時間と捕食量は季節により給餌池以外における捕食量の増加と相関関係はあるが、給餌池への飛来は捕食の有無に関わらずほぼ通年確認された。季節によって給餌池以外の捕食で短期間に体重増加があることを給餌池に設置の体重計で測定により確認した。 日中のワシによる捕食防止対策は通年実施し、年間の給餌量削減に繋がった。 給餌池に供給している井戸水が例年より濁水頻度が増え、夏期から初冬期にかけて5回濁水し2回活魚が大量に死亡することがあった。</p>	
	<p>【生息確認調査】 1月～3月、風連川上流域の酪農村周辺エリアにて、踏査及び音声確認調査を実施した。シマフクロウの痕跡は確認できなかったが、川底は礫でヤマベの生息が確認されており、河畔林に樹高のある広葉樹がやや残されており、今後の河畔林再生候補地となると考えられた。</p>	
	<p>【補助給餌】おさかな寄付で活魚230kg4回購入し給餌池に放流し、ほぼ毎日つがいが飛来したことを確認した。 秋10月中旬以降は給餌池以外で捕食量が増える時期は給餌場での捕食が減り、給餌池への飛来時間が変わり滞在時間も短縮された。</p>	

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2020 年度 事業報告

上位目標：地域主導による資源循環の構築で、生物多様性の保全、地域の創生、シマフクロウの生息環境の持続的保全

<p>地域の生態系全体の回復を促す重要エリアの保全・再生・管理を、地域主体の取組として定着する仕組みが町との協働事業として始動している。 (地域資源循環の構築による生物多様性の保全促進)</p>	<p>【繁殖確認調査】</p> <p>釧路管内の 5 か所でシマフクロウの繁殖確認調査を適期に実施し、1 か所で1羽の繁殖が確認された。このペアは 4 年ぶりの繁殖となった。給餌のモニタリングをしているつがいは、メスが適期に巣箱に入り雄が餌を運ぶ行動が観察されていたが、後半メスが巣箱から出てしまい、産座のみであることを確認した。</p> <p>その他、12 月、釧路管内にて次期繁殖期前の巣箱確認及び巣材補給作業を 5 箇所で行った。</p>
	<p>【重要環境の保全】</p> <p>(1)植林地メンテナンス（2013 年から継続事業）</p> <p>前年の冬に電気柵の修繕を行なった結果、雪解け後は、電気柵の倒壊はなく、鹿の食害を受けた樹木は 6 月には新たに伸びた幹から新芽が出そろい約1mに成長した。</p> <p>草刈りは 6 月に電気柵の周囲のみの実施にとどめ、樹木周囲は自然の推移に任せた。</p> <p>(2)浜中町の重要環境の持続的な保全に向けた提言：</p> <p>令和 1 年に浜中町に提案し実施へとつながった「生物多様性の森づくり」において 5 月に町は町有地約1haに広葉樹の植樹を実施した。今後の森づくりについて町と改めて確認を行い、当団体の環境保全目標であるシマフクロウを環境バロメーターとした地域の環境保全を進めることで、生物多様性の保全や持続可能な地域の創生につなげたいことを共有し、町から中長期計画案の作成を提案いただいた。</p> <p>(3)SDGs に基づいた水源涵養林保全</p> <p>地域の重要環境となる水源域の多面的機能発揮の必要性について関係機関で協議し、シマフクロウを環境バロメーターとした、持続可能な一次産業の振興や生物多様性の保全を促進する、協働による水源涵養林保全を目指す。</p> <p>昨年「浜中町の水源域における道有林の混交林化へ」向けて合意が交わされ、今年度は具体的計画作りに取り組み、10 月関係機関で現地下見を再度行い、11 月には森づくりや森川海の物質循環の専門家を</p>



特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2020 年度 事業報告

上位目標：地域主導による資源循環の構築で、生物多様性の保全、地域の創生、シマフクロウの生息環境の持続的保全

交え、現地検討会を室内外で開催した。

開催にあたり、森づくりアドバイザーとして、特定非営利活動法人 近自然森づくり協会 理事長 兼 北海道支部長 北海道科学大学名誉教授 農学博士の岡村俊邦様と、森川海の物質循環のアドバイザーとして北海道立総合研究機構 林業試験場 森林環境部 環境グループ 農学博士の長坂晶子様を招聘し、現地状況を踏まえたアドバイスや関連講義を行なっていただき事業計画作成に役立てた。

(4)協働による河畔林再生事業 WAKKA(ワッカ)

5 月から新たな協働事業として、浜中町の酪農村地帯に水源を有する風蓮川上流域を対象に、失われた河畔林の再生と酪農業との共生として、「シマフクロウの道再生プロジェクト WAKKA(ワッカ)」を酪農家、林業家、環境調査員、樹木医等と協働で始動した。

今年度は対象地となる松岡牧場内を水源とする小支流及び周辺環境の生物基礎調査として水生生物、昆虫類、鳥類等の調査を実施した。対象河川の中流域や周辺河川上流域の樹木調査も実施し次年度の植栽に向けた樹種選定を行なった。

また広報活動として、Facebook を立ち上げ活動を町内外に随時紹介し、8 月には本事業の趣旨等を紹介するライブ動画を配信、12 月には調査実施報告会をリモートで開催した。



特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2020 年度 事業報告

上位目標：地域主導による資源循環の構築で、生物多様性の保全、地域の創生、シマフクロウの生息環境の持続的保全

普及・啓発事業 環境教育・人材育成・広報	
<p>地域の希少種を環境バロメータ―に据えた豊かな里海を育む森づくりなど環境学習を通じ、地域の内陸と沿岸、大人と子ども、他地域とのつながりが生まれ、持続可能な町づくりに子供たちの発想が活かされている。</p>	<p>【環境教育事業】</p> <p>(1)総合的な学習への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜中町内中学校 2 校より出前授業の依頼を受け、「地域の自然を知る」をテーマに 8 月 9 日に、浜中町立茶内中学校 1・2 学年 37 名、浜中町立浜中中学校 1 学年 12 名に授業を行った。 「地域の自然を知る」足掛かりとして、地域の環境バロメータ―であるシマフクロウの保護活動を学び、水源林を訪れ森や川の生き物の観察を通じ、シマフクロウや一次産業、人の暮らしを支えている共通の重要な地域資源を知り、その役割について生徒や先生方と共有し、新たな視点で地域の自然を見直すことが出来た。実施にあたり、コロナウィルスの感染拡大に配慮した。 ・2019 年度総合学習「人もシマフクロウも喜ぶ地域づくり学習」を実施した当時小学 6 年生との約束で全員で植えた植樹地に看板を制作し設置する作業を実現させた。デザイン画は生徒に作成してもらった。 <p>(2)【ESD 研修会開催の提案】</p> <p>1 月、ESD(持続可能な発展のための教育)派遣アドバイザー制度を活用し、浜中町教育委員会主催で、教職員を対象とした ESD 研修会実施について検討の提案を行なった。羅臼高校と霧多布高校の交流を活かし、羅臼町における ESD 実践例を学ぶ機会や、「浜中町の系統的な学び」について考える場の提案を行った結果、系統的な学びがない状況へ危惧や、系統的な学びについて関係機関で情報共有及び学びの需要があることが分かった。</p>
	<p>【人材育成事業】</p> <p>(1)講演会等の受託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルス感染拡大で緊急事態宣言が発令され、予定していた講演会(浜中町、東京、札幌)は全て中止となった。 ・8 月、太鼎堂鍼灸院様の企画でオンライン会議システムを利用した対談が開催されゲスト出演した。「シマフ



特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2020 年度 事業報告

上位目標：地域主導による資源循環の構築で、生物多様性の保全、地域の創生、シマフクロウの生息環境の持続的保全

<p>当団体の浜中町での取組成果や提言が地域をはじめ北海道の自然保護促進に向けた普及啓発事業などに生かされている。</p>	<p>クrowエイドが目指す森づくりと医療」の考え方をテーマに対談を行い、医療関係者のほか多様な分野の方々が閲覧し、医療と環境保全に共通する「全体を見る・診る」「持続性」の部分で特に議論が深まった。後日視聴者からの質問に対応した。</p> <p>(2)取材対応</p> <p>11月～12月、福岡県、北海道釧路市、札幌市在住の高校生大学生から取材を4件受けた。テーマは、「シマフクロウと環境保全」「シマフクロウエイドの活動や地域との関わり」「再生可能エネルギー施設の動植物への影響」「SDGsと絶滅危惧種」などで、新型感染症や地球温暖化の解決にも関係の深い内容であった。事前にまとめられた質問に対し電話やメール、対面に対応をした。</p> <p>【広報事業】</p> <p>(1)ホームページやSNSによる広報</p> <p>寄付やサポーター募集、企業CSRとの共同として事業型連動寄付を引続き実施した。4月から新たな事業型連動寄付として合同会社 Piccoro 様よりシマフクロウオリジナルグッズ販売が始まった。</p> <p>(2)イベントによる広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月、9月、大阪阪急デパート梅田本店様主催イベント「北海道物産展と併設の北海道移住計画展」にて登壇予定だったが新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。 ・9月、札幌にて手作り女性作家4名様の企画で「エシカルガーデン」が2日間開催され、当パンフレットの配架協力をいただき、売り上げの一部を寄付いただいた。 ・10月～11月、オンラインにて養老子山本牧場 北海道物産展が開催され出店依頼があり、サポーター募集で出店したが物産展を通じた入会者は無かった。 <p>(3)印刷物による広報</p> <p>会報作成・発行</p> <p>サポーター向けに、シマフクロウや保護活動、啓発活動、関連ニュース等を紹介する会報を隔月で作成し、シマフクロウの置かれている状況や課題、それに対する直接的・間接的な取組み等について支援者と共有した。12月に107号目を発行した。</p> <p>(4)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月、箱根成川美術館にて開催された三枝美津子様個展にて団体パンフレットの配架協力をいただいた。 ・1月、株式会社合人社計画発行月間マンション情報誌 Wendy1月号にて代表理事及び当活動について原稿執筆依頼を受け全国に配布配信
---	--



特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド 2020 年度 事業報告

上位目標：地域主導による資源循環の構築で、生物多様性の保全、地域の創生、シマフクロウの生息環境の持続的保全

	<p>された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月、浜中町の広報誌「広報はまなか」にて代表理事、事務局長が紹介された。 ・10月、朝日放送テレビの番組ぽつんと一軒家にて当活動が紹介された。
<p>組織基盤の強化に向けた具体的な施策の実現で 財政・事務処理・専門的人材を配するようになって いる。</p>	<p>【組織基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのさいわいのプロボノの皆様と協業し、企業向け資料の説明資料キッドと大型助成金の発表資料作成に取組み7月に完成した。 ・理事の意見交換会開催（リモート会議） <p>10月～11月、オンライン会議室システムを利用し、理事の意見交換会を複数回実施し、団体設立趣旨の確認、現在までの活動内容・課題の共有、団体の存在意義、今後目指す方向性等の確認を行った。</p> <p>課題を整理し次年度計画に反映させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計及び支援者管理の安定運営について事務局で検討を行い、2021年から外部委託、人員増加で対応することとした。

以上